

てんご新聞

73.5.No.191
発行所 徳島県 0683-88-5292

斯く斯く

ひやく日に日にと萌える。祖谷はきれいです。時に茶葉樹が多い山は、木の芽が出はじめから、茶も赤と緑に染まっています。雨が降るたびに深々たる緑色。あ、因余。はいいあ、と感心しながら。フーヒーを一杯。美味いなあ。

この今年、朝晩は寒い。高尾山は何回も白く雪が。五月に雪も朝、十度以下の日もあつたりして、木の芽が出ても、ひかひか春が山の頂きまご登っていきません。

山菜も、なまこ味がおちるかも知れませんが、林道沿いのタラの芽とかコリアブラを獲りにきこいます。近頃は、栗も食べたいので、木をタラにする様子を獲りたててみせ人が、そろびい人は、今年獲れればいいので、木をイタメコとして行きます。山の物は、大きな木以外、誰がどうしていいものか。少はくとも、私有地である事は間違いないので、温かいことにはなります。山野草も、山の手に入ります。山の手に入ります。山の手に入ります。



鹿

のびこようか。四月は、植林の行事が中心でした。花粉症の害から、杉の苗を植える行事です。モサイク間伐とかきつ切った後に植えるのです。



鹿に葉を食べられ、成長が止まったり、木の直経を食って、長さ一メートル位の筒状を、苗にかがせ、両側にワイを打ち、筒をさす。この作業、のびますが、この作業、以外と時間がかなり、標高一百メートル前後の奥深い所。南のほうは、ミンセエの鳴き声と上空の飛行機の音が、炭焼きの煙があつたり、山の手に入ります。小屋があつたりと、よくもまあ、一入りの植林したもので、鹿に、ひんごまで、おぼん

鹿に葉を食べられ、成長が止まったり、木の直経を食って、長さ一メートル位の筒状を、苗にかがせ、両側にワイを打ち、筒をさす。この作業、のびますが、この作業、以外と時間がかなり、標高一百メートル前後の奥深い所。南のほうは、ミンセエの鳴き声と上空の飛行機の音が、炭焼きの煙があつたり、山の手に入ります。小屋があつたりと、よくもまあ、一入りの植林したもので、鹿に、ひんごまで、おぼん

と感心しながら、アケとお金を縁に打ちました。鹿対策の筒は、何年後かには消滅するそうですが、その時がくれば、鹿に皮はむかれこまうか。鹿といえは、農作物の被害が大きい。鹿舎指定して、頭の内を師の人たちに捕まえてこまうか。民家の周辺には、まだ鹿舎がはくひりません。人の近づくに、おおいに植物がある事を知つてこまうか。から、なまこ手短かになりました。共済の道は、はいものか。鹿だけ、山野草の群生地が、山野草がはくひりこまうか。